

因北中学校 研究だより

学びを深める
～互恵的な授業づくりを通して～

令和元年9月9日（月） 第3号

●9月6日（金）、第2回校内授業研究が行われました。

○第3学年A組で、藤井先生の指導による英語科の研究授業が行われました。“To Our Future Generation”という単元の4時限目。本時は、長い英文を読むときの工夫について各自の方法を交流し、他者の工夫を参考にしながら本文の要旨をとらえていくことをねらいとする授業でした。

●生徒の学習について

○各自が整理したことを基に行った話し合いを通して、「スラッシュを入れながら日本語に訳す」「5W1Hに関する情報を印分けして訳す」など様々なアイデアが出され、お互い大いに参考になった様子でした。

▽付箋に書く内容が不明なまま活動を進めたり、班の友だちを見ずに発表したりしている姿も見受けられました。全校学活で提示した“相手意識”のある対話をこれからも意識して創っていきましょう。



●協議会について

○古賀先生のアドバイスにより、授業後に授業者、研究部、VTR撮影担当、指導助言者による協議を行い、研究協議会で協議してほしい具体的な授業場面を明確にすることができました。今回は、①個人の工夫を付箋紙に書きやすくするための指示内容や仕掛け方、②班の話し合いの交流により、教師のねらいに最短距離で近づいていけるような進め方、の2点でした。

○グループでの協議では、上記2点に関して具体的な改善案を考えることができました。例えば、付箋を書く際の指示の言葉を修正したり、長文読み方マニュアルを作成するというグループ活動の内容を工夫したり、話し合いの時間確保のためにカットする所を具体的に提示したりすることができました。

●古賀先生からのアドバイス

○話し合いを充実させるための時間のマネジメントについて、全部の班のホワイトボードを貼りだした後、説明させるのではなく、「自分たちと同じものに赤印、異なるものに青印をつけなさい」など、ポイントを絞り込んでいく活動を入れることも検討するとよい。

○「読む」は、①単語として認識し②単語の意味を変換し③1つのまとまりある意味をつけるという3つの段階がある。今回、教師からの指示は「要約せよ」より「全訳せよ」の方が分かりやすかったかも。

○協議会の時間がもう少しとれるなら、参観者からの意見の後に授業者の感想・意見の時間を取り、納得がいかない場合等は、再度協議する、というような研究協議ができると議論が深まるのではないかと。

◆協議会の進め方については、今回、協議する内容を実際の授業場面に絞ることで、VTRで確認する生徒の活動場面が明確になり、そのため具体的な生徒の姿をもとに協議を進めることができたのではないかと思います。この方式は、古賀先生からのアドバイス内容も含め、次回以降の研究授業にも取り入れていきたいと思っております。これからも、生徒の「互恵的な学び」が深まるよう、お互いに知恵を出し合っていきましょう！